

## 鶏鳴寺・九華山公園・玄奘寺・毘盧寺・静海寺・観音寺・南京の城壁

鶏鳴寺（けいめいじ）は（鸡鸣寺）、東晋の永康元年（300年）に創建される。南朝梁の大通元年（527年）に同泰寺と命名される。当寺は、稀代の崇仏皇帝として知られる武帝の奉仏活動の拠点となった、当時の都・建康の中心寺院である。すなわち、梁の宮城である台城の北に位置する当寺に向かい、大通門を造営した。「同泰」と「大通」とは反語である。また同時に、大通への改元が行なわれた。こうして、同泰寺と命名された年には、僧俗 50,000 人余を招いて四部無遮大会（むしゃだいえ）が設けられた。また、武帝は、翌年には、当寺において捨身（しゃしん）を行い、「三宝の奴」となることを宣したが、皇太子と百官が錢 1 億万緡を供して武帝の身を贖った。こうした捨身がその後3度も行なわれた。また、その後も当寺で、水陸大会などの大法会が数次にわたって開催された。さらに、仏教教理にも通じた武帝は、当寺において諸經典を講経している。中大通5年（533年）の「般若経」の講経は、無遮大会と併設されたため、30 万余の僧俗が参集したという。

明の洪武 20 年（1387 年）に鶏鳴寺となる。1000 年以上の歴史がある南京有数の古寺である。周辺には台城、玄武湖、南京市人民政府がある。

中国人による反日抗争が高まる中、南京最大の寺であった毘盧寺の本尊・千手観音像と、名古屋東山の瑞雲寺に安置されていた高さ 10m という木彫りの十一面観音像が交換され、あたかも仏教を通して日中の融和を実現させるかのような日本軍部配慮。

平和堂の上階には、中国から贈られた千手観音が安置されている。この千手観音は、昭和 16 年（1941）6 月、中国・南京市の毘盧（びる）寺から贈られたものである。

昭和 12 年（1937）7 月 7 日の廬溝橋事件に端を発して日中戦争が始まるが、日本軍の南京占領後には泥沼化し、日中全面戦争となっていく。中国人による反日抗争が高まる中、南京最大の寺であった毘盧寺の本尊・千手観音像と、名古屋東山の瑞雲寺に安置されていた高さ 10m という木彫りの十一面観音像が交換され、あたかも仏教を通して日中の融和を実現させるかのような日本軍部による宣撫工作が秘かに行われた。当時、南京には、日本の傀儡と言われた汪兆銘政権（南京政権）があり、この観音像はその汪兆銘政権から、日華親善の名目で、日本の全仏教徒に対して贈られたものであった。

名古屋の千手観音像は平和堂に安置されるようになったが、南京の毘盧寺の十一面観音は、文化大革命で破壊されてしまった。現在、「二つの観音様を考える会」を中心にして、この千手観音像を南京毘盧寺に返却しようという市民運動が起こっている。



立派な石門



石門を潜ると天王殿



南方增長天



東方持国天



北方多聞天



西方広目天



ガラスケースに入った韋馱天



見事な鐘楼



見事な鼓楼



中国では狭い境内大きな香炉



毘盧寶殿の後方には薬師寺塔



盧寶殿の鷓尾は少し変わっています



毘盧寶殿内には毘盧遮那仏坐像



両サイドには羅漢達が



釈迦仏ですか



ガラスケースに入った千手観音



境内にそびえ立つ大きい薬師仏塔



薬師仏塔の入口



塔の1階は色とりどりの光で照らされている薬師如来坐像





2階も色とりどりの光で照らされている四面の薬師仏でしょうか



最上階の鸡鸣寺境内の全景



玄武湖畔には城壁が続いています



南京市街地



各階の軒先には風袋が



大きな石壁には般若波羅蜜多心経心経が金の文字で彫られていました



**九華山公園・玄奘寺九華山公園**(きゅうかざんこうえん)は、中華人民共和国南京市内に位置しており、太平門の西、玄武湖の南東岸に位置する公園。山頂には三蔵塔があり、山頂からは玄武湖、明代の城壁を見ることができる。三蔵塔には下には三蔵法師の青銅像がある。金陵四十八景之一と称され、九華丹青とも称される。言い伝えによれば宋代に天禧寺の可政法師が陝西より玄奘の頂骨を金陵に持ち帰り玄奘塔を建てたが、後の太平天国の乱で戦火に消え玄奘の頂骨も行方不明になる。抗日戦争時に日本軍がこの地を発掘調査し玄奘の頂骨を納めた石箱を発見する。この発見は仏教界を沸き立たせたが、残りの半分は終戦後に入手し、国共内戦を経て靈谷寺玄奘法師記念堂に納められた。

三蔵法師の遺骨は、宋の時代に長安(現西安)から南京にもたらされた後、太平天国の乱で行方不明になりましたが、第2次大戦中に南京を占領していた日本軍が、偶然にも土木作業中に法師の頭骨を納めた石箱を発見(昭和17年)しました。頭骨は、日本軍はこの玄奘の頂骨を独占しようとし、民衆の怒りを買う。この事態に日本の傀儡政権であった中華民国維新政府ですら再三交渉して玄奘の頂骨をようやく半分入手することができ、残り半分は、当時の南京政府に還付され、新たに三蔵塔を建立し玄奘の頂骨を納めた。昭和19年日本へも分骨されたのです。

日本へ渡った頭骨は、当初芝増上寺に安置されましたが、折しもその頃の東京は空襲の被害が広がり、一時埼玉県蕨市の三学院に移され、さらに三蔵法師の建立した大慈恩寺にちなんで命名された慈恩寺に疎開しました。

第2次大戦後、日本の仏教界が正式な奉安の地を検討した際に、三蔵法師と縁の深い慈恩寺が奉安に最適の地とされ、昭和25年に13重の花崗岩の石組みによって玄奘塔が築かれました。

その後、慈恩寺から台湾の玄奘寺（昭和 30 年）や奈良の薬師寺（昭和 56 年）へも分骨されています。

**玄奘**（げんじょう 602 年- 664 年 3 月 7 日）は、唐代の中国の訳経僧。玄奘は戒名であり、俗名は**陳禱**。尊称に**三蔵法師**、**玄奘三蔵**などがある。玄奘の翻訳は『大般若経』600 巻を含む 76 部 1,347 巻に及んだ。日本で奉安されたのが、さいたま市の慈恩寺である。後に奈良市の薬師寺「玄奘三蔵院」に一部分骨された。

三蔵法師と言われる人は鳩摩羅什・真諦・不空金剛などなど居りますが日本では靈仙ただ一人



九華山公園の入口の石門



長い階段を登ると玄奘寺が



玄奘寺入口正面に石碑



玄奘寺本堂 中国では大きくない本堂



本堂には三世仏



修行僧達



玄奘像と三蔵塔



玄奘寺碑記



玄奘の青銅像



玄奘寺碑記



九華山三蔵塔の石塔



九華山三蔵塔



花崗岩での製作三蔵塔



三蔵法師の舎利が納められている



山の頂上にポツリと鐘楼



鐘楼には六和亭の看板が



鐘の下には観音様が何の意味を表しているのでしょうか



**毘盧寺（びるじ）** 南京市の友好姉妹都市でもある名古屋市。2101年12月12日～15日名古屋市出身の海部総理とともに、毘盧寺平和友好訪問団が南京大虐殺の犠牲者を弔う日中合同平和法要（国際和平方会）での来寺のことでした。垂れ幕が何時までも・・・

**【毘盧寺（びるじ）と名古屋市の関係】**

日中戦争時、日本軍部は日中融和の宣撫工作のため、南京最大の寺の毘盧寺の本尊・千手観音像と、名古屋にあった当時世界一とも言われた十一面観音像の交換が行われた。戦後、南京の毘盧寺の十一面観音は文化大革命で破壊され、一方、名古屋の千手観音は行き場を失い、篤志家によって名古屋の平和公園平和堂の中で、誰の目にも触れられることなく安置された。

中国では改革開放政策が進み、文革によって破壊された十一面観音の代わりに本尊として人びとが拝んでいるのは、なんと名古屋に贈られた千手観音像の古い写真である。信者たちの多くが、観音様が戻ることを願っているのだ。名古屋の市民から、観音像を南京に返還しようという動きが生まれ始めた。

戦後60年、今なおあの時代の歴史認識でゆれる日中関係の中で、歴史を原点に戻し、再び歩みなおそうというきっかけになればと考えた人びとである。時代に翻弄された仏像を、ようやく人々の安らぎのなかに戻そうと両国の人々が動き始めた…。



毘盧寺の山門



広い境内に大雄寶殿・法堂・萬仏楼



変わった鴟尾



軒先には風袋



参道のサイドには文殊殿



象に跨った文殊菩薩



参道のサイドには普賢殿



獅子に跨った普賢菩薩



大きな伽藍大雄寶殿



大雄寶殿もご本尊



豪華な前卓 (まえじょく)



大雄寶殿の右には鐘



左には太鼓



側壁の左右には羅漢達



裏堂には弥陀三尊の壁像



大きな法堂



立派な山号額



法堂の前には海部総理来寺の幕



大きな伽藍の萬仏楼



大きく豪華な萬仏楼の山号額



主婦と僧侶と立ち話

**静海寺**（せいかいじ）は[南京](#)市内北西部、閱江楼の西隣にある仏教の寺院である。静海寺の歴史は古く明永楽9年（1411年）に永楽帝が鄭和の南海遠征を記念して建立し、この時に「静海」の名を賜った。「静海」には「四海平静、天下太平」の意味が込められている。

1840年6月に清と英国の間でアヘン戦争が始まり、1842年には英軍に南京を占領され清は英国との協議を迫られ静海寺で8月12,13,14,24日に4回の会談が行われ、8月29日に英艦隊旗艦上で正式に南京条約が締結された。これは中国が初めて結んだ不平等条約であった。

1986年に静海寺の再建が決定され、1987年に静海寺址に628平方メートルの明建築の寺が建てられた。1990年8月には《南京条約》資料陳列館が建てられ對外開放され、1996年末には香港返還を記念して拡張工事が行われ約600万円の費用がかけられ《南京条約》資料陳列館は2800平方メートルに拡張された。2004年末には鄭和の南海遠征600周年を記念して拡張工事が開始され2005年夏に完成し、静海寺の規模は元の4倍の約12000平方メートルに拡張された。資料館は南京条約と鄭和に関する資料が豊富である。静海寺は1985年5月に南京市文物保護單位に指定されている。正式名称は静海寺《南京条約》資料陳列館らしい。静海寺には

南宋の三宿崖もあり三宿崖は 1982 年 8 月に南京市文物保護單位に指定されている。寺と言うよりは資料館のイメージが強い。僧侶は居ませんでした。



広い境内立派な石門



大きな鐘樓鼓樓は有りません



大きな鄭和紀念堂



鄭和紀念堂の額



鄭の木造ですか



鄭和紀念堂の内部の展示物



鄭和紀念堂の内部の展示物



鄭和紀念堂の内部の展示物



南京靜海寺紀念館

觀音寺 資料は有りません。靜海寺の近くに在りましたので立ち寄りしました。



觀音寺の山門



觀音寺の素朴な山号額



大きな本堂（正殿）向かって五色旗



本堂には正殿と弘仁普濟天紀宮の山号額



正殿内には觀音菩薩



正殿内には立派な木魚



正殿の入口には鐘



地藏殿の山号額



地藏殿には白玉仏



観音さんの涅槃ですか？



碑亭



碑亭と書かれた山号額には亀が 亀の背中には石碑 意味は何ですか？



太鼓と鐘を鳴らしながら・・・



鐘がメインの式典ですか？



**城壁**・静海寺と観音寺の門前の道路には城壁が・・・永遠と続いています・・・



広い道路ですが城壁を潜り抜けています



城壁は永遠続きます





城壁上がって見ました、城壁は黒のレンガで作られ・・・



此処から敵を攻撃